

令和5年度 山梨県立ひばりが丘高等学校評価報告書(自己評価・学校関係者評価)

学校目標・経営方針 自分に誇りを持ち自己を磨き、毎日を生きて学ぶ生徒。自分を見つめ困難に打ち克つ生徒。社会人として自立し役割を担うことのできる生徒の育成。

山梨県立ひばりが丘高等学校校長 加藤 幸一

本年度の重点目標	1 自主・自律的な生徒の育成	A ほぼ達成できた。(8割以上)
	2 自己肯定感・自己有用感の育成	B 概ね達成できた。(6割以上)
	3 心身の健康の保持増進及び基本的生活習慣の確立と規範意識の向上	C 不十分である。(4割以上)
	4 社会性や公共性・道徳心の習得	D 達成できなかった。(4割以下)

評価	4 良くできている。
	3 できている。
	2 あまりできていない。
	1 できていない。

自己評価			年度末評価(2月1日現在)		
番号	評価項目	具体的方策	自己評価結果	達成度	成果と次年度への課題・改善策
1	自主・自律的な生徒の育成	生徒に寄り添い、個々の生徒の長所を引き出し、育てる指導により、自主的自律的な態度の育成に努める。	○生徒個々に寄り添った指導については肯定的な回答が9割を超えた。 ○自主的自律的な態度の育成については否定的な回答が3割あった。	B	○生徒が自主的に取り組める活動や自己達成感を得られる目標の設定などを工夫していく。
2	自己肯定感・自己有用感の育成	授業内容・評価規準の明確化、主体的で対話的な深い学びの実践等により、達成感・充実感を味わうことで学習意欲を喚起し、学力向上に努める。	○主体的で対話的な深い学びの実践については、意欲的な取り組みもみられ、9割が肯定的な回答であった。 ○個に応じた学習支援については、AIDリル等への取り組みもみられたが、否定的な回答が2割を超えた。 ○体験的な学習を組み込むことで、「総合的な探究の時間」「表現の時間」「創作授業」「校外学習」など「ひばりのドリカムプラン」は生徒の自己肯定感の向上やキャリア学習に役立つとの回答が生徒・保護者から9割あった。	B	○AIDリルの活用法については各教科で検討を続けていく。 ○「ひばりのドリカムプラン」は今年度より生徒の実態やニーズに合わせて変更したことで、昨年に比べ高評価が得られた。今後もブラッシュアップを続けていく必要がある。
		基礎基本を大切に授業や授業のユニバーサルデザイン化、AIDリルによる個に応じた学習支援等により、学習意欲を喚起し、学力向上に努める。	○体験的な学習を組み込むことで、「総合的な探究の時間」「表現の時間」「創作授業」「校外学習」など「ひばりのドリカムプラン」は生徒の自己肯定感の向上やキャリア学習に役立つとの回答が生徒・保護者から9割あった。		
		総合的な探究の時間におけるキャリア教育や探究活動、「表現の時間」等により、自らの在り方、生き方、地域をとりまく課題を考えたり、客観的に自己を表現したりすることで、社会を生き抜く力や課題を解決する力の育成に努める。	○体験的な学習を組み込むことで、「総合的な探究の時間」「表現の時間」「創作授業」「校外学習」など「ひばりのドリカムプラン」は生徒の自己肯定感の向上やキャリア学習に役立つとの回答が生徒・保護者から9割あった。		
		「創作授業」や「吉田のうどんづくり」、「花・野菜づくり」等の体験的な学習や集団活動により、自己肯定感・自己有用感の醸成や自己実現に努める。	○体験的な学習を組み込むことで、「総合的な探究の時間」「表現の時間」「創作授業」「校外学習」など「ひばりのドリカムプラン」は生徒の自己肯定感の向上やキャリア学習に役立つとの回答が生徒・保護者から9割あった。		
3	心身の健康の保持増進及び基本的生活習慣の確立と規範意識の向上	日常の健康観察やカウンセリング、「通級による指導」等により、心身の健康の保持増進や自己理解、コミュニケーション力の向上に努める。	○心身の健康保持に関しては、肯定的な回答が9割以上を占めている。	A	○引き続き、丁寧な声かけや働きかけで心身の健康保持とともに、健康的な生活習慣の確立、規範意識の向上に努めていく。
		日常の声かけやホームルームでの生活指導等により、健康的な生活習慣の確立と規範意識の向上に努める。	○引き続き、丁寧な声かけや働きかけで心身の健康保持とともに、健康的な生活習慣の確立、規範意識の向上に努めていく。		
4	社会性や公共性・道徳心の習得	日常の挨拶や対話等により、望ましい人間関係や社会性を身につけさせ、いじめを生み出さない雰囲気や道徳心の向上に努める。	○いじめアンケートについては今年度0件であった。また、学校評価アンケートでも肯定的な回答が9割以上となっている。	A	○引き続き、丁寧な声かけや働きかけで望ましい人間関係や社会性を身につけさせるよう努めていく。
		日常の清掃やボランティア活動等により、他人を思いやり、協力と奉仕のできる公共心・責任感・協調性・豊かな心の育成に努める。	○引き続き、丁寧な声かけや働きかけで望ましい人間関係や社会性を身につけさせるよう努めていく。		

学校関係者評価	
評価	意見・要望等
3	○多様な生徒に対応するため、生徒一人一人とコミュニケーションを図りながら、きめ細かな授業や生徒指導の実践が行われている。 ○自主・自律的な生徒の育成に関わる評価において生徒・保護者ともに85%以上の肯定的な回答があることから、学校の具体的な方策は良い結果につながっていると考える。 ○先生方が生徒一人一人に寄り添いながら生徒の良さを引き出す指導をしていることが感じられる。 ○生徒および保護者の学校評価アンケートでは、教員の向き合い方や指導内容に肯定的な評価が多い反面、教員の自己評価には厳しい側面が見られた。生徒自身の目標設定や努力の度合いが若干低いことが伺える。生徒の多様性を考慮すると、教職員間での「生徒支援研究会」「通級指導」の効果的な活用をより一層望みます。 ○全体を通して「強く思う」の教員と生徒の比較から先生方の「自己への厳しさ」と「志の高さ」を強く感じます。生徒に寄り添い長所を引き出すことをほとんどの先生方が意識されていますが、ここだけは生徒の肯定的意見が下回っています(とはいえ9割近いので素晴らしいと思います)。寄り添えたかどうかの答えは生徒の中にしかありません。今後も生徒を大切にす取り組みを継続してほしいと思います。
4	○社会で生き抜く人間になることを目指すキャリア教育の授業「ひばりのドリカムプラン」は体験をベースにした学習方法で、生徒の自己肯定感・自己有用感を育てるものとなっている。 ○生徒の自己肯定感・自己有用感の育成に関わる評価においていずれも高評価であることから、学校の具体的な方策は効果的であることがわかる。ただ、AIDリルの活用については改善が求められる。 ○落ち着いた態度で、真摯に学習に取り組んでおり、生徒が主体的に学力向上に努めている姿が見られた。また、自分の良いところを伸ばす活動が見られ、表彰を受けるなど素晴らしい成果をあげている。 ○「やり直し」を可能にするカリキュラムやそれに沿った個別指導が丁寧に行われていることが推察された。 ○進路実績の中には高い目標を実現した生徒があり、成果が表れている。 ○ICTの活用状況は理解できたが、それ自体はあくまでもツールなので「学びの楽しさ」のきっかけになるように配慮することが望ましいと思います。 ○様々な生き辛さを抱えた生徒も多い中、体験的な学習や主体的で対話的な学びを意識した特色ある取り組みは、自己肯定感や自己有用感を養育するもので素晴らしい活動だと思います。AIDリルによる個に応じた学習支援について否定的な回答が2割を超えたことについて、ぜひ理由を分析し、今後の授業づくりを生かしていただきたいと思います。
4	○基本的生活習慣の確立と規範意識の向上の必要性を生徒に理解させて、全職員が連携を取りながら指導力を入れていることは、今後も継続して欲しい。 ○心身の健康保持、基本的生活習慣の確立、規範意識の向上に関わる評価において、大変高い評価が得られていることから、学校の具体的な方策は満足できるものであると考える。 ○多くの生徒が落ち着いた態度で生活している。 ○集団の活動が昔年な生徒は散見されるが、創作授業を参観して多くの生徒が他者とのかわりに積極的な一面が見られた。 ○生徒・保護者・教員の相互連携を深め、教員した生徒指導ができるように、望ましいコミュニケーションが築ける関係を作ってください。 ○通級による指導や「生徒支援研究会」などを通して、全校に個々の生徒を深く理解し、主体的な学びを構築する姿勢が浸透していることで、学校としての雰囲気やよりよいものになっていると思います。多様な支援が必要な生徒もいると思いますが、まずは「受け止める」ことを大前提に実現されていることが、生徒への安心感に結びついていると感じます。
4	○基本的生活習慣を身に着け、いじめのない、相互に認め合う学校づくりを引き続きお願いしたい。 ○社会性や公共性・道徳心の習得に関わる評価において肯定的な回答がほぼ9割以上あることから、学校の具体的な方策は大変満足できるものであると考える。 ○いじめの案件がないことから、生徒は友好的な人間関係が築けていることが推察される。 ○様々な体験活動を通して、社会性を育まれているのではないかと考える。 ○夜間部「社会人の話を聞く」授業では、自らの努力で進路が開けることに興味を示した生徒が見られた。富士北麓地方は多くの業種で人手不足減少が顕著になっており、本校生徒が地元産業で活躍できる場は広がっている。学校教育全体で、自己肯定感を育て粘り強く努力できる生徒の育成ができることを望みます。 ○いじめアンケート「0」は素晴らしいですね。日常的に生徒たちが「自分達は大切にされている」と感じられていればこのことだと思います。また、問題行動等がおきても、「起きたからダメ」ではなく、その一つ一つ丁寧に寄り添って生徒を支えていく姿勢があるからだと思います。学校全体でそうした雰囲気づくりができていることが素晴らしいと思います。

※※※ (1)重点目標と評価項目については、各学校の現状と課題に基づき、実情に合わせて重点化し、設定する。
(2)学校関係者評価については、年度当初に今年度の重点目標の現状と具体的な対策を説明し、評価に必要な情報提供を計画的に行う。学校関係者評価実施日とは、最終回の学校評価委員会等を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。